

—日常生活と食物嗜好—

東筑紫短大 ○綱身節子 碩 芳子

目的 老人の食との問題は直接健康につながる最も基礎的なものばかりでなく、老人の健康問題としても重要な項目の一つとして多くの報告がなされている。

第4報に引き続き今回は、老人の日常の活動度(活動性)と食物嗜好(日本食形態、非日本食形態)を調査し、食習慣と時代変化の影響を分析し、さらに日常の活動と健康、日常の活動と疾病についての関連を把握検討し、老年期の健康維持の一手段とする。

方法 対象:北九州市内の60才以上の在宅老人男、女各100人、ホーム老人男、女各100人
合計400人について調査を行った。

内容 ①対象区域の分布別 ②在宅老人とホーム老人 ③健康度 ④疾病別 ⑤日常の活動
⑥喫煙 ⑦アルコール飲用の有無 ⑧入歯の有無 ⑨くすりの服用、在宅老人においては、家族構成の検討も行った。

結果 在宅老人がホーム老人より、日常活動が高く、疾病との関係に関連があつた。